

	評価計画					自己評価				学校関係者評価	改善計画	
	中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値 %	アンケート				結果と課題の説明	コメント	改善策
						教職員	生徒	保護者等	評価			
1	コロナウイルス感染症対策	検温、マスク着用、手洗いの実施	検温結果の記録・確認 マスクの適切な着用と手洗いの励行	生徒が検温・記録、マスクの着用、手洗いできていて考える割合	100%	100%	96%	94%	A	コロナ禍の生活も3年が経ち、コロナ対応の習慣が定着してきている。昨年度は、繰り返し指導を行ってきたことも生徒は当たり前のごとして受け入れ、行動することができている。2学級で学級閉鎖はあったものの、極力感染を抑え学校の教育活動を実施することができた。一方、マスクの着用で表情でのコミュニケーションが取りづらかったり、顔を見せることに抵抗感を感じたりするなど新たな課題も出てきている。夏場には、熱中症対策もあり感染対策に見直しが出るなど、状況に応じた行動が求められるなど一人一人が適切な行動ができる力の育成が求められる。	感染予防に努めながら、学校の諸活動を実施できたことはよかった。体育祭や合唱コンクールも保護者も参観することができ、保護者としてもありがたかった。生徒たちにも励みになったように思う。	○大人がさせる指導から生徒がする取組への転換 生徒会活動を中心に、学校活動を止めないための感染予防についての取組について考える場を与え、主体的に行動できる力を育成する。 ○感染症や熱中症等に対する知識のアップデートと環境整備 常に、最新の情報を収集、共有をし、根拠をもった対応と未然防止や早期対応に努める。また、市教委やPTAと協力して環境整備に努める。
				感染予防と熱中症対策の両立ができていて考える割合		100%	91%	89%	A			
2		消毒、換気の実施	消毒の実施計画の策定と実施 換気に関するきまりの策定と実施 感染防止対策に必要なものと環境の整備	職員が感染予防に必要なものの整備や、消毒・換気を計画に従って実施した割合	100%	93%			A			
3		授業の質の充実	全員での授業公開・研究協議の実施	授業公開や研究協議への参加が授業改善につながったと考える教員の割合	100%	97%			A	引き続き評価の高い状態である。全員研修が授業改善のための気づきや方策を得る機会となった。グループでの協議が熱心に行われた。	授業研究を「授業者の視点」から「学習者の視点」に変えて研鑽を積んでいることはとてもよい。引き続き取り組んでほしい。	○県教研、経験研該当者の研修を機会とし、引き続き全員で行う。
4	わかる授業の創造	家庭学習の充実	家庭学習ノートカレンダーで学習時間の意識付け テスト計画表を活用した振り返りの実施	家庭学習を促す指導の実施割合	65%	77%			A	数値は昨年より下がったが、家庭学習ノートカレンダーに時間記録欄を追加、タイムマネジメント意識啓発の取組、家庭学習ノートコンクールの実施や良い取組例のポスター掲示など実践に向けて全職員で取り組むなど、生徒に自分の生活を見直す機会としての手立ては工夫できた。時間を増やすという意識付けにうまくつながらなかった。	生徒に、予定を自分で立ててマネジメントする力が着くとよい。また、「よい勉強方法」を教師が示すだけでなく、生徒同士で紹介し合ったり共有したりする場を設け、自分が納得し、自分に合った学び方を見つけられるようにするとよい。 「家庭学習」を宿題等与えられたものをするという捉えからもっと広く自己の学びにつながるものとする必要があるのではないか。	○生徒が自分の学習や生活を振り返るような取組を機会として、記録をしっかり録るという期間を設けて取り組むことを継続する。全校で徹底して行うことで、意識付けを強化する。
				家庭学習が1時間以上できていると答える生徒の割合		50%	55%	41%	B			
5		ICTを活用した取組の推進	各教科等の学習での活用	タブレット等ICTを活用して学習していると答える生徒の割合	65%	73%	34%	49%	C	オンラインでの行事の実施や、アンケート・長期休業中の課題など、授業以外でも使用した。学校と、家庭での使用を一度に聞いたことで、生徒や保護者は回答しづらかったのではないか。 家庭への持ち帰りは、充電しないまま持ってきたり、忘れてきたりと生徒の意識の低さから十分使えないのが現状。システム更新がなされず、すぐに使用ができないなど機器のトラブルも多い。Wi-Fi環境が全家庭で整っていないと気軽に調べ学習などの課題を出せない。そのあたりが教員や生徒の利用に繋がっていない状況がある。 生徒は毎日使うような高頻度でない「使用している」という回答にならないのではないか。	国語の授業でタブレット端末を活用して、グループで調べ学習のまとめをしているのを見た。以前にはなかった学びの形態が行われていることが分かった。一方で、先生がICT支援をしながら学習指導を行うのは困難だと感じた。一層の活用を推進するためには、ICT支援員の配置などの必要性を感じた。また、生徒自身が学習のためにタブレット端末をどのように活用するとよいかという方策を学ぶことも大切である。	○生徒の使用ルール・扱い方(充電・更新)の徹底が必要。学校での一斉の保管で授業での活用が進むのではないか。総合学習などでの利用を増やす。
6		体験的な学習の充実	地域に関わる学習の実施 ふるさと教育の実施	地域(ふるさと教育)に関わる学習を実施したと考える割合	70%	100%	55%	75%	B	職場体験や地域の方を招いた講話など、昨年度実施できなかった活動ができたこともあり、体験的学習の実施に関わる教員の肯定的評価は100%であった。その一方で、探究的学習についての肯定的評価が低いことから、探究の過程を意識した指導に課題があることが分かる。	共有でもいろいろなプログラムを実施しているが、振り返りを生かしていない面がある。今回、2年生で行った職業講話では、事前指導を丁寧に行ったため多くの質問が出るなど、当日が充実した時間となり、さらに事後の学習に深まりがみられた。こうしたサイクルが他にも広げられるとよい。	○課題の設定について、生徒が自分の興味関心をふまえて主体的に設定し、それについて図書資料やタブレットを活用して探究していくような学習活動の工夫。 ○事前指導を丁寧に行うとともに、次につながる事後指導の工夫。 ○お互いに授業を見合い、探究的な指導の在り方を共有することで、授業改善に生かす。(研究部との連携)
				探究の過程を意識した指導(例 図書資料やタブレットを使った調べ学習等)		50%	48%	48%	C			
7	自己実現を図るキャリア教育の推進	キャリアパスポートによる振り返り	育てたい力の設定 振り返りの充実	キャリアパスポートの取組で自分の目標設定や振り返りがしっかりできた割合	80%	90%	80%	46%	B	昨年度に比べて生徒の肯定的数値が16%増えているので、生徒の意識は高まっていることがうかがえる。また、昨年度と比較すると保護者の「わからない」が26%減少している。年度初めにキャリアパスポートについて保護者あて文書で説明したり、学期末のキャリアパスポートに保護者コメントを書いてもらったりなど改善策に取り組んだ成果だと考える。その一方で、保護者の肯定的評価が低いのは、キャリアパスポートファイルを持ち帰ることができないため、2回の振り返りしか見ることができず、子どもの成長を具体的に知ることができないからだと考える。	生徒本人が自分自身を主語として学びに向かっていくためにも、キャリアパスポートの活用を充実させてほしい。学校教育だけでなく社会教育の学びにも広げられるよう、地域での活動を通しての学びの記録もできるとよい。 また、デジタル化することで活用の仕方も広がるのではないか。紙媒体で学校に保管するだけでなく、いつでもどこでも見ることができるようポートフォリオにしてほしい。	○生徒の個人用タブレットで自分が書いたキャリアパスポートの写真を撮り、随時フォルダに保管させておく。そして、学期末にタブレットを持ち帰ったときに、保護者がそれまでに書いたためたキャリアパスポートを見て子どもと話をしたり、励ましのコメントを書いたりできるようにしておく。

	評価計画					自己評価				学校関係者評価	改善計画	
	中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値%	アンケート				結果と課題の説明	コメント	改善策
						教職員	生徒	保護者等	評価			
8		基本的生活習慣の確立	挨拶、返事、靴揃えなど、社会的マナーの意識付けを行う	挨拶、返事、靴揃えなど、社会的マナーが身に付いていると考える割合	80%	73%	94%	65%	A	職員、生徒、保護者それぞれの数値的には妥当であると考え。今後、保護者の数値を80%に近づけていくために、具体的な取組を考える必要がある。	現在、学校は落ち着いた学校生活となっているが、より一層学校、家庭、地域が一体となって社会性を育む子育てができるよう連携を図ってほしい。	〇一中学生として、社会的マナーに関わる「具体的な生徒の理想像」を全体で共有し、外部の方を招いたときなど、意識付けを行っていく。(生徒指導部との連携)
9		積極的な生徒指導の推進	生徒指導の3機能(自己決定の場を与えること、自己存在感を与えること、共感的人間関係を育成する)を意識した授業や生徒会活動の実施	個に応じるとともに、生徒同士がお互いに認め合える授業や生徒会活動が行われていると考える割合	80%	97%	93%		A	職員は積極的な生徒指導を意識して教育活動を行っている。生徒の評価は比較的高い一方、記述による意見では個に応じた対応に不満もあるため、生徒への関わり方に課題がある可能性がある。	生徒一人ひとりに寄り添ったかかわりを今後も継続してほしい。	〇職員それぞれが、生徒が自分が認められていると感じるような関わり方を意識する。また生徒が相談しやすい関係・環境づくりをしていく。
10	生徒一人一人を大切に する生徒指導・特別支援教育の推進	多様な学びの場における教育環境の充実	組織的な実態把握と生徒理解を個に応じた支援計画等につなげ、必要な教育環境を整える	合理的配慮も含め、生徒に応じた学習環境が整っていると感じている割合	70%	97%	85%	63%	A	低学年ほど保護者の評価が低いが、実態がわからないために評価に反映されていない面もあり、肯定的な評価をみると比較的高いことがわかる。保護者に学校の取組が伝わっていないことや、生徒自身が求める環境を学校がしっかりと把握できていないことも考えられる。	通級指導教室等を通して、多様な背景をもつ生徒の困り感を軽減し、自己肯定感を育み、諸活動に主体的に取り組んでいけるよう継続した取組を行ってほしい。	〇余裕を持ち、早めに通信等を発行するなど、効果的に学校での活動の様子を家庭に知ってもらうことで、学校の取組についての理解を深めてもらう。また生徒が相談しやすい関係・環境づくりをしていく。 〇各学年体が生徒について通級指導教室等とより細やかに情報を共有し、個に応じた支援が行き届く体制づくりを構築する。
相談して必要な学習環境を用意してもらえると感じる割合				B					58%			
11		危機管理意識の高揚	PTAと連携をした登下校指導の徹底	交通ルールを守り安全に登下校できていると考える割合	80%	100%	98%	88%	A	保護者は自分の子どもは安全を意識した登下校を行っていると考えており、生徒も意識している様子。しかし実態は必ずしも一致していないと思われる。	年度初めに交通事故が多く発生している。そうした状況等についても家庭や地域が知って、生徒に啓発していくことが大切である。	〇生徒が交通ルールを理解していない可能性がある。時間を確保し、警察からの講習会を実施してはどうか。また保護者からの生徒への声掛けもPTA活動と連携し、月初めのメールでの啓発も継続する。
12		生徒指導上の課題への対応	事実確認と共有に基づいた方針のもとに、迅速な対応を組織的に行う	すばやく、かつ適切に対応ができたと思う割合	100%	100%	89%		A	全ての生徒の思いには応えられていないが、8割以上の生徒は対応してもらっていると感じている。より細やかに生徒の実態を把握していくことを意識する必要がある。		〇生徒が職員と相談しやすい関係・環境づくりを進めることで、より細やかな実態把握を目指す。また、平日に担任が生徒と関わるができる時間を確保できるよう、時間を見出していく。
13	家庭・地域との連携、定期的な情報発信	家庭と連携したメディアコントロール	家庭学習の習慣づけに向け、特に定期テスト前学習時間調査及びメディアコントロールのステップ調査を行い意識化を図り、保護者の意見をもらうなどして喚起する。生徒の意識化の目安は、メディアコントロール段階ステップの平均が、ステップ2(メディア接触は1日2時間まで)以上。	学習以外のメディア接触が、一日2時間までの生徒の割合	50%	87%	51%	30%	B	家庭学習の習慣づけに向け、各講演会の時期と連携しつつ、特に定期テスト期間中にメディアコントロールのステップ調査を行い意識化を図り、保護者の意見をもらうなどした。生徒の意識化の目安は、メディアコントロール段階ステップの平均が、ステップ2(メディア接触は1日2時間まで)以上だった。研究部の主導のもと、上記の取組を同一指導案で学活を4時間行い、2学期を中心に全校で実施した。生徒の意識については、本学校評価アンケートとは別の定期テスト期間中にメディアコントロールのステップ調査でも、生徒の割合はだいたい同じ(50%前後)である。結果のポイントは職員→生徒→保護者といくにしたがって下がってきている。これは、保護者はわが子自身が保護者が期待しているよりはメディアコントロールできていない、また、職員はこれだけでできればいいだろうという意識の差から生まれたことかもしれない。	保護者の期待値はどのくらいなのかを把握し、保護者と連携しながら取り組んでほしい。また、生徒自身が自分事として情報モラルや情報活用能力を身につけていくよう、短学活や学級活動、道徳など様々な機会を通して指導を行ってほしい。	〇家庭の協力も不可欠であるため、下記の学校からの情報発信と同様に、メディアコントロールについて、特に行っている取組をもっとタイムリーに家庭に伝え、家庭の協力をさらに得るようにする工夫が必要と思われる。(例:テスト計画表の変更、メディア使用の目標時間を保護者に伝えるなど)
14		学校公開日の開催	計画的な公開日の実施をする。多くの保護者が関心をもって参加できる工夫をする。	学校公開日での行事や面談や参観授業で、学校の様子が分かったり、学校との連携が深まったと考える割合	80%	100%		87%	A	保護者アンケートと生徒アンケートで各学年ともに目標値を超える80%以上の肯定的評価を得た。学校公開日は年8回設定したが、P総会や部活懇談と併せて実施した時以外は、保護者参加数が減少する傾向にあった。	コロナ禍の中で、感染対策等の影響もあるだろうが、学校公開日の参加者が少なかったのは残念である。学校での生徒の活動の様子に関心をもってもらえるよう工夫し、実施してほしい。	〇さらに多くの保護者が関心をもって参加できる工夫が求められる。※来年度の学校公開日は曜日が偏らないように、特に意識して設定してある。(火～金で各2回の計8回を予定)
15		各種たより、HPによる情報発信	学校だより、学年だより等を定期的に発行する。学校HPを定期的の更新する。メール配信による情報提供をする。	学校の活動の内容や様子が分かったり、適切な時期に情報が得られたと考える割合	80%	100%	90%	88%	A	保護者アンケートと生徒アンケートで各学年ともに80%以上の肯定的評価を得た。学年が上がるにつれ肯定的評価が増えている。特に3年生の保護者で肯定的な回答が多く90%を超えた。3年生の保護者で肯定的な回答が多かったことは、行事等における保護者の協力体制を築くうえで有益と考えるし、進路指導上でも評価できる。	学校だより等を通して情報発信をされており、学校の様子がよく分かった。引き続き、学校の様子を広く発信してほしい。	〇学級便りや学年便りのほとんどが週初めや月初めの発行となっているので計画的な情報発信であるといえるが、そのため行事によっては振返の発信時期が若干ずれることもある。ここが改善されると良い。適宜、適切な情報提供を一層心がけていくようにする。また、さらに学校メール配信を有効に活用し、学級だよりや学年だよりを配信することも検討する。

目標値の85%を下回るもの
 目標値の70%を下回るもの